様式３号

（博士論文の題目）

幼児期の屋外遊びの有用性とその促進に向けた方策に関する研究

博士後期課程　今井 夏子

（博士論文の概要）

序章

本研究では，幼児期の屋外遊びと社会性との関連を検討し，屋外遊びの有用性ならびに屋外遊びを生起する環境要因を検討するとともに，幼児の屋外遊びの実態を把握することで，幼児の屋外遊びを増やす方策を提案することを目的とした．

第１章

第１章では，幼児におけるスクリーンタイム，身体活動，遊びの種類ならびに社会的スキルを同時に扱い，スクリーンタイムと社会的スキルとの負の関連について，媒介効果を考慮して明らかにすることを目的とした．その結果，身体活動強度はスクリーンタイムや社会性と関連しないことが示された．一方で，かくれんぼや木登りなどの屋外遊びは，スクリーンタイムが社会的健康に及ぼす負の影響を減衰させる可能性を示した．

これらの結果は，遊びの種類によってスクリーンタイムや社会性への影響が異なることを示しており，特に屋外遊びでの仲間との交流の多さが社会性に好影響を与えた可能性が考えられた．

第２章

第 1 章より，屋外遊びでの他者との関わりの多さが社会性に作用する可能性が推測された．しかしながら，それらの遊びを何人で行っていたかについては明らかにできておらず，さらにいずれの項目も質問紙調査にとどまっていることから，より客観的な指標での測定が求められる．そこで第 2 章では，屋外遊び経験の有無に加え，遊んでいる人数にも着目した上で，子どもの社会性の身体的基盤ともいえる実行機能を測定し，幼児の屋外遊びの種類数および遊ぶ人数と実行機能との関連を検討した．その結果，屋外遊びが多い幼児は，そうでない幼児に比して，抑制機能が高いことが確認された．さらに，屋外遊びが多く，加えて遊ぶ人数も多い幼児は，より抑制機能が高いことが示された．

以上のことから，幼児の実行機能，とりわけ抑制機能の向上には，屋外遊びの種類数や人数が影響する可能性があるとの結論に至った．

様式３号

第 3 章

第 2 章より，3 人以上での屋外遊びを増やすことができれば，社会性やその身体的基盤といえる実行機能が高まる可能性が示唆された．しかしながら，問題提起でも述べたとおり，現在の日本では，社会環境や家庭環境の変化に伴い，遊び経験の不足が懸念されている．そのため，今後はより経験する遊びの種類が少なく，遊ぶ人数も少ない子どもへのアプローチが重要となる．先行研究では，生活状況や家庭環境要因が幼児期の遊びの頻度に影響することも指摘されている（Brussonii, 2018）．そのため，幼児期のあそびの種類数や人数に起因する生活状況や家庭環境要因を明らかにした上で，その環境要因への手立てを検討する必要がある．そこで第 3 章では，幼児の遊びの種類や遊ぶ人数に関連する生活要因ならびに家庭環境要因を検討した．その結果，共働き家庭の幼児は，片働き家庭の幼児に比して，遊びの種類や人数が少ないことが示された．したがって，遊びの種類や人数を増やす手立てとして，子育て家庭への社会的支援が喫緊の課題であることが示された．

第 4 章

第 3 章より，共働き家庭の子どもは，片働き家庭の子どもに比して遊びの種類や人数が少ないことが示唆された．しかしながら，就労形態を強制することはできないため，社会全体での幼児の遊びの機会を増やす取り組みが求められるといえる．そのような中，子どもたちが平等に遊びの機会を得ることのできる園内での遊びの充実は注目に値する．また，園内の遊びの実態に関する先行研究では，保育者によるインタビュー調査や活動量の測定にとどまっており，幼児が実際に園内でどのような遊びを行っているかは明らかにされていない．さらに，子どもの主体的な自由遊びを保障していくためには，屋外遊びの実態を明らかにすることやリスクを伴う遊びの有用性を示していく必要があるといえる．そこで第 4 章では，環境づくりの前段として，幼児の園内での自由遊び場面を観察し，社会性との関連を検討した．

その結果，本研究の対象児は，園内で鬼ごっこや遊具遊びに最も多く従事し，平均 4.4 人で遊ぶ様子が示された．またリスクを伴う遊びは，全体の 12%であり，諸外国の先行研究に比して少ない様子が確認された．さらに，リスキープレイを頻繁に行う幼児は，仲間を助ける，片付けを手伝うといった向社会性行動をとることが明らかになった．一方で，落ち着きのなさや癇癪を起こすといった行動はリスキープレイと関連がみられなかった．以上の結果から，リスキープレイの実態ならびにその有用性が明らかとなり，今後は子どもたちのリスキープレイを増やす取り組みとして，リスキープレイが発生しやすい場の工夫が求められるとの結論に至った．

以上 4 つの検討課題における研究知見を踏まえ，最終的な研究目的である屋外遊びの促進に向けた方策として，「リスクを伴う遊びを含む，園内での多様な遊び経験の保障」を提案する．